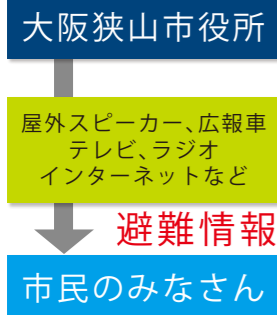


3 避難情報の伝達 (避難情報が発令されたら速やかに行動しましょう)

市では、災害の危険性が高まり、避難が必要となる場合に避難情報を発令します。



避難情報の種類	みなさんのとるべき行動
避難準備情報	避難の準備を始めましょう
避難勧告	速やかに避難を始めましょう
避難指示	直ちに避難しましょう

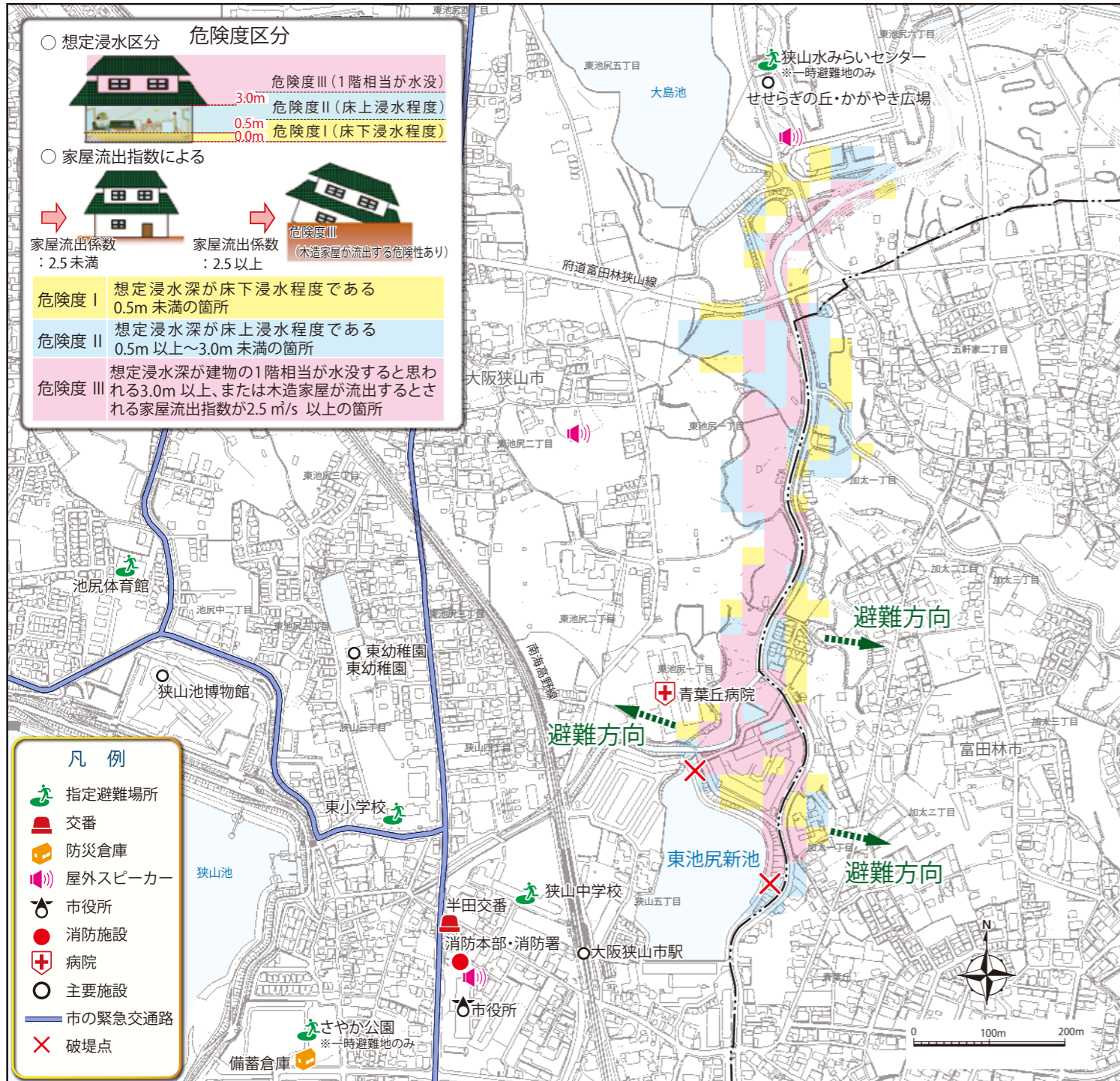
※気象状況などにより避難情報が聞こえない場合や、伝達が間に合わない場合がありますので、身の危険を感じたら早めに避難して下さい。

非常持出品

- 貴重品
- 携帯ラジオ
- 照明器具
- 衣類
- 非常食品
- 非常用道具類
- 救急・衛生用品・薬

4 危険度と避難行動 (危険度に応じた避難行動を考えましょう)

地域の危険度を確認し、一時的に避難できる場所を探しておきましょう。
危険度Ⅲの箇所は、水の勢いで建物が損壊するおそれがあるため、特に注意が必要です。



大阪狭山市ため池ハザードマップ

保存版

東池尻新池

この「ため池ハザードマップ」は「東池尻新池」が決壊した場合に想定される浸水区域や水深、および避難に役立つ情報をとりまとめたものです。災害のおそれがあるときの情報収集や、災害時の避難行動に役立ててください。



●堤長：340m ●堤高：9.1m ●貯水量：95,700m³

大雨や大地震のあとは注意しましょう。

大雨地震



- ため池の被災要因の多くは、大雨と地震です。
- ため池の被災は、堤防に亀裂が入ったり、堤防から漏水が発生したりなど様々な形態があります。ため池の異常に気付いたら、すぐに下記まで連絡してください。
- 万が一ため池が決壊した場合、多量の水が短時間で押し寄せてくる可能性があります。大雨や大地震のあとは情報収集につとめ、避難情報が発令された場合や、身の危険を感じた場合は、早めに避難しましょう。

ため池の異常発見時の連絡先	市役所	消防本部・消防署	黒山警察署
	072-366-0011	072-366-0055	072-362-1234

1 ため池ハザードマップの活用方法 (日頃からの備えが大切です)

[1] 想定される浸水区域や深さなどをチェックしましょう。

- 浸水深やはん濫水の到達時間に応じた避難を考えましょう。
- 災害時の様々な事態をイメージしましょう。



[4] 日頃から家族や地域で話し合しましょう。

- 災害時に協力し合えるよう、家族や地域で役割などを話し合しましょう。
- 避難時に支援が必要な要援護者への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。



[2] 避難場所を決めておきましょう。

- 浸水深やはん濫水の到達時間より、どこへ避難するかを決めておきましょう。
- 浸水深が0.5m以上(1階の床上相当)の区域は、緊急避難できる身近な場所も探しておきましょう。



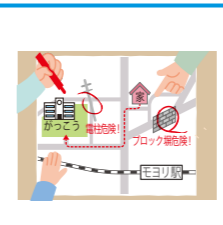
[5] 防災情報の入手先を確認しておきましょう。

- ため池の堤防が被災すると、短時間で決壊に至る可能性がありますので、日頃から防災情報がどこで入手できるかを確認しておきましょう。



[3] 避難場所までの避難経路を考えましょう。

- 避難場所まで実際に歩いて、移動時間を確認しておきましょう。
- 避難途中で浸水した場合に緊急避難できる場所を探しておきましょう。



[6] 市の公表している他のハザードマップもご覧ください。

- 市では、洪水・土砂災害を対象とした防災マップも公表しています。このマップと併せて活用し、災害学習を深めましょう。



2 防災情報の入手先 (正確な情報を入手しましょう)

大雨や地震の時は、テレビ、ラジオ、インターネットなどで最新の情報を確認し、早めの避難に備えましょう。

名称	情報の種類	ウェブサイトアドレス
おおさか防災ネット	府内の気象情報・地震情報 災害情報など	http://www.osaka-bousai.net/pref/ http://www.osaka-bousai.net/mobile/pref/ (携帯電話用) ★防災情報メールに登録しましょう 事前登録を行うと防災情報がメールで配信されます。 【登録方法】 touroku@osaka-bousai.net に空メールを送り返信メールから登録
気象庁	全国の気象情報や地震情報など	http://www.jma.go.jp/jma/index.html

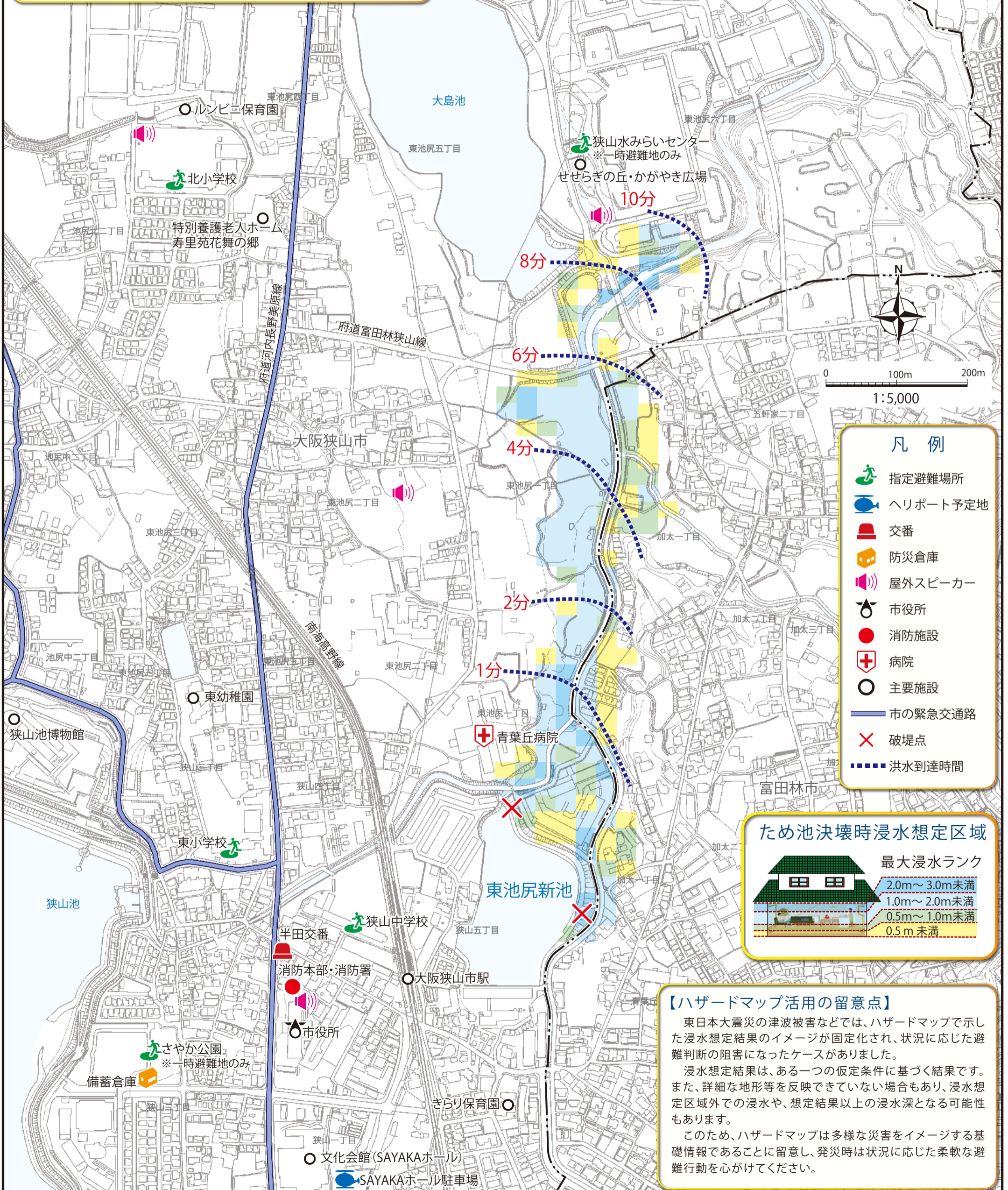


5 ため池浸水想定区域図(東池尻新池)

ため池ハザードマップの作成条件

● ため池ハザードマップは、万が一への備えとして「最大規模の浸水想定区域」を示しています。浸水想定区域は、以下の条件に基づく「はん濫シミュレーション」により求めています。

- ① ため池が満水状態のときに、大雨や大地震等によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出すと仮定しています。
- ② 決壊を仮定した場所は、堤防が高い場所としました。
- ③ 決壊によって流出する水は、地形を25mの格子で表した数値モデルを用いて、その動きや場所ごとの水深等を計算により求めました。



凡例

- 指定避難場所
- ヘリポート予定地
- 交番
- 防災倉庫
- 屋外スピーカー
- 市役所
- 消防施設
- 病院
- 主要施設
- 市の緊急交通路
- 破堤点
- 洪水到達時間

ため池決壊時浸水想定区域

最大浸水ランク

- 2.0m～3.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 0.5m～1.0m未満
- 0.5m未満

【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。

浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。

このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。